

湛水直播管理情報(第4号)

～ 湛水土中直播(カルパー) ～

平成27年7月17日
アルプス農協管内農業技術者協議会

現在の生育状況

直播コシヒカリの生育状況は、草丈は昨年並みで、茎数は昨年より多く、葉齢は昨年より1日程度早く推移しています。また、幼穂形成期は4月29日播種で7月15日頃と予想されます。

<JAアルプス管内 7/8直播調査結果> ※生育調査ほ数:コシヒカリ2地点

年度	播種日	草丈	葉齢	m ² 当たり茎数	葉色	予想幼穂形成期	幼穂形成期から出穂期までの日数
コシヒカリ H27平均	4月29日	61.3cm	11.0	694本 (1m当たり209本)	3.9	7月15日	近年22日間 出穂期予想 8/6
コシヒカリ H26平均	4月30日	61.6cm	10.8	575本 (1m当たり174本)	3.9	7月16日	22日間 出穂期 8/7

※ほ場により生育差がみられますので、①幼穂長、②草丈・茎数、③葉色等から稲体の生育状況を的確に把握し、適切な栽培管理をしましょう。

当面の管理ポイント

1. 直播コシヒカリの追肥

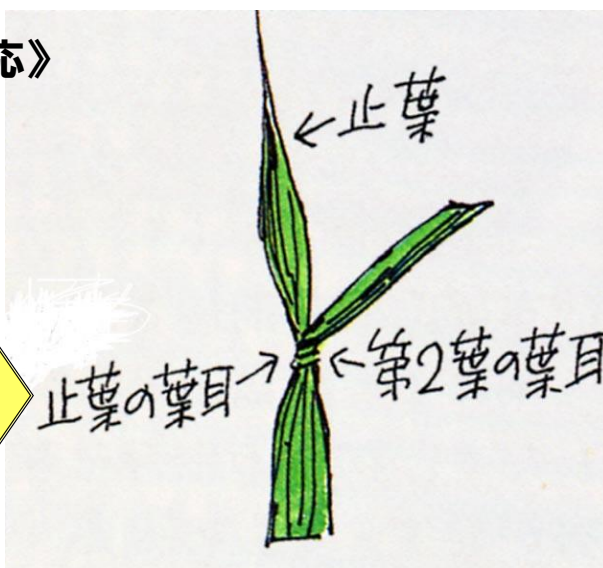
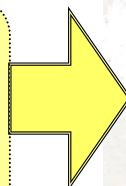
～生育状況を確認して適切な対応を～

《肥効調節型肥料(基肥一発肥料)施用ほ場への追肥対応》

- 出穂7日前に葉色が薄い(葉色3.8以下) 場合には、出穂3日前(走り穂が出る頃)までにBB穂肥35号を5～7kg/10a施用し、稲体の活力維持に努めましょう。

《参考》出穂10日前のめやす

止葉の葉耳と第2葉の葉耳が重なった頃
(葉耳間長±0cm)



2. 幼穂形成期以降の水管理

～登熟期間の稲体活力維持のために～

- ①幼穂形成期以降～出穂期まで 飽水管理 ～常時湿潤状態を保持～
(足跡水がなくなる前に入水する。繰り返し。)
- ②出穂後20日間 湛水状態 (適宜に水の入れ換え)
- ③その後～収穫5～7日前まで 間断かん水(1,2日湛水し、土の表面が乾き始めたら入水)

【水管理のイメージ】

生育期	幼穂形成期 7/15頃	出穂期	20日間以降
水管理	← 飽水管理 →	出穂後20日間は湛水管理	間断かん水
水量			

◇随時：フェーンが予想される場合は、事前にかん水

3. カメムシ対策

～今年も多発！防除の徹底を～

6月下旬にJAアルプス管内の雑草地・畦畔等でカメムシのすくいとり調査を行ったところ、今年もカメムシの確認地点率は高く、1地点当りの平均頭数も多い状況です。

◆雑草地におけるカメムシすくい取り調査結果(6月下旬調査 JAアルプス管内57ヶ所)

年度	確認地点率	調査地点平均頭数
本年	93.0%	7.2
昨年	94.6%	12.6

※57地点中53地点で確認されました。



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ

◇アカヒゲホソミドリカスミカメの発生が最も目立ちますが、近年はアカスジカスミカメも増加しています。

◇雑草の穂を出さないように草刈りを実施しましょう。

◇出穂以降に草刈りを行う場合は、**本田防除の直前**に行いましょう。



トゲシラホシカメムシ

4. 病害虫本田防除

～生育ステージに合わせた適期防除～

品種	防除時期と薬剤名及び散布量 (※防除時期は、出穂期を8月6日と推定して設定)		
	出穂直前(随時)	穂揃期	傾穂期
コシヒカリ	8月2日～8月4日	8月9日～8月11日	8月16日～8月18日
	粉剤 ブラシンバリダ粉剤DL (収穫14日前まで) 4kg/10a	ラブサイドキラップ粉剤DL (収穫14日前まで) 4kg/10a	スタークル粉剤DL (収穫7日前まで) 3kg/10a
	液剤 ブラシンバリダフロアブル 1000倍液 (収穫14日前まで) 150ℓ/10a	ラブサイドフロアブル + 1000～1500倍液 キラップフロアブル 1000～2000倍液 (収穫14日前まで) 150ℓ/10a	スタークル液剤10 1000倍液 (収穫7日前まで) 150ℓ/10a
対象病害虫	いもち病、紋枯病、ごま葉枯病	いもち病、ウンカ類、カメムシ類	ウンカ類、カメムシ類、ツマグロヨコバイ

《粒剤体系》

防除時期	出穂期10日前頃(7月27日頃)	傾穂期(8月16日～18日)
農薬名	イモチエースキラップ粒剤 (収穫35日前まで) 3kg/10a	スタークル粉剤DL (収穫7日前まで) 3kg/10a
対象病害虫	いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類、変色米	ウンカ類、カメムシ類、ツマグロヨコバイ

★★★粒剤を使用する場合の留意点★★★

※農薬飛散の問題がある市街地周辺や稲以外の作物が隣接する場合に使用する。

※粒剤は、出穂10日前頃に湛水状態(水深3～5cm)で均一に散布し、散布後7日間は、落水及びかけ流しはしない。

安全・安心な米づくりのため、栽培記録簿やGAPの記帳は忘れずに！